

第Ⅲ期「仙台・羅須地人協会」

【連続文化講座】 第3回

2024年9月7日

### 3.11からの復興と文化芸術～音楽・仙台の事例から～

大澤 隆夫

- ① 3.11と仙台フィル、そして音楽の力による復興センター
- ② 音楽の力をめぐって、例えば日常への還帰
- ③ 日々の暮らしが復興の現場
- ④ 開かれたプラットフォームとしての役割
- ⑤ 息の長い支援活動を
- ⑥ 活発な市民の音楽活動とユニークな文化行政
- ⑦ 非常時における文化芸術と社会の関連を可視化するための補助線
- ⑧ 改めて立脚すべきポイントの確認
- ⑨ 中間支援組織・民俗芸能を継承するふくしまの会の紹介

2011年3月26日「第1回復興コンサート」 見瑞寺（仙台市宮城野区）



2011年4月14日 名取市文化会館（名取市）



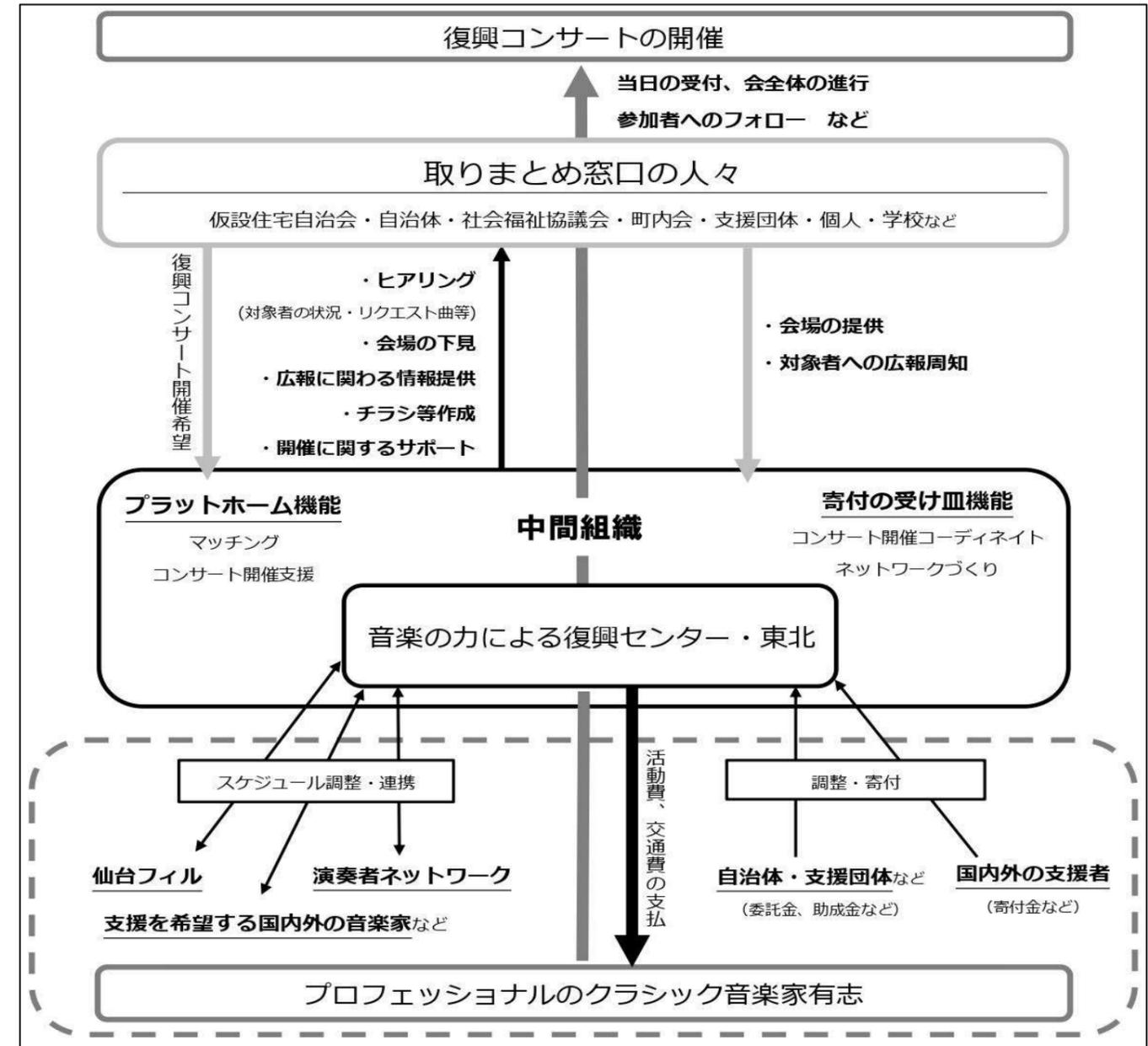
2011年4月25日 山元町立山元中学校（亶理郡山元町）



2011年5月11日 「マラソンコンサート」最終日 アエル（仙台市青葉区）



## 支援者と被災者をつなぐ中間組織



# 触れ合うための工夫を重ねて ～小さな音楽会～

応急仮設住宅や災害公営住宅、あるいは地域の集会施設——復興コンサートの会場はどれも決して広くはありませんが、そのぶん「ヒザとヒザが触れ合う距離」で参加してもらっています。コンサートでは被災者自らが楽器を弾いたりする新しい体験、交流を活性化させる音楽家のトークや参加者とのやり取り、みんなで一緒に歌ったり体を動かしたり、隣同士で肩を叩きあったりする触れ合いなど、心のケアやコミュニティ再生に役立つような工夫を凝らしています。

